

2024年 2月6日

学位論文審査並びに最終試験結果報告書

大学院リハビリテーション科学研究科長 殿

主査 小島 悟  
副査 高橋 尚明  
副査 谷口 圭吾  
副査 青木 光広



このたび、沖野 久美子 氏にかかわる学位論文審査並びに最終試験を行い下記の結果を得たので報告する。

記

1 学位論文題目

長時間の座位が下腿筋群の弾性率、下腿周径および下腿不快症状に及ぼす影響  
～中高年男性・女性での観察～

2 論文要旨

別添

3 学位論文審査の要旨

本学位論文は、長時間の座位によって発生する下肢浮腫の状態を超音波エラストグラフィにて定量的に評価することの有用性を検討したものである。論文は2つの研究から構成されており、研究1では下腿筋群の剪断波伝搬速度を計測するにあたり、その計測手法を確立するための妥当性と信頼性を、研究2では研究1の成果に基づいて中高年者を対象とした下腿浮腫評価の有用性をそれぞれ検証したものである。その結果、1) 剪断波伝搬速度計測は、長時間の座位による下腿浮腫変化をとらえる方法として信頼性が高く妥当性を有する、2) 臨床的意義が高いとされる中高年者における長時間の座位による下腿浮腫変化をとらえるうえで、剪断波伝搬速度計測は有用な評価ツールになり得るといった新たな知見が示されている。

学位論文審査では、用語をはじめとする文章表現の適切性、論文構成、研究意義と目的の明確化、データ計測および解析手法の詳細な記載等に対して、審査委員から2回にわたり指摘がなされ、適切に加筆修正が行われた。また、本研究内容は、当該研究領域における国際誌に掲載されており、そのオリジナリティーは十分に証明されている。これらのことから、審査委員会においては、本学位論文は博士論文に値する論文であると評価した。

4 最終試験の要旨

最終試験では、論文の内容等についての諮問を行った。諮問の結果、論文提出者は当該研究分野および関連分野についての知識や理解力を有していると認めた。

以上の結果、沖野久美子氏は博士（リハビリテーション科学）の学位を授与する資格のあるものと判定する。